

## 宗教とは何か

### 【4】お遍路さんの様に

#### 2) 武田勝頼を偲んで II

#### 駒飼宿～岩殿城

2016年5月22日(日)

【1】はじめに	1月 1日(金)
【2】宗教探索の旅	
1) 神道 お伊勢まいり	2月27日(土)
2) 仏教 身延山	4月29日(金)
3) キリスト教 (東京)	6月
4) 天理教 (天理)	8月
5) イスラム教 ( )	10月
【3】走れ 42. 195km	
1) 訓練状況	6月
2) 結果	11月
【4】お遍路さんの様に	
1) 武田勝頼を偲んで 新府城～田野	5月1日(日)
2) 武田勝頼を偲んでII 駒飼宿～岩殿城	5月22日(日)
3) 大月～富士吉田～河口湖	8月
4) 大月～都留～秋山	11月
【5】サムシング・グレート	
1) それって何？	3月12日(日)
2) 宗教とサムシング・グレート	9月
【6】まとめ	12月

### 1. 武田勝頼の最期（インターネットより）

1582年3月、武田勝頼は未完成の新府城に放火して逃亡した。

勝頼は小山田信茂の居城である岩殿城(大月)に逃げようとした。

しかし、小山田は織田信長に投降することに方針を転換し、勝頼は笹子峠での進路をふさがれた。後方からは滝川一益の追手に追われ、逃げ場所が無いことを悟った勝頼一行は武田氏ゆかりの地である天目山棲雲寺を目指した。

しかし、その途上の田野でついに追手に捕捉され、嫡男の信勝や正室の北条夫人とともに自害した(天目山の戦い)。享年37歳。これによって、450年の歴史を誇る名門・甲斐武田氏は滅亡した。

### 2. 今回の旅の目的（折乃笠公平）

もし、小山田信茂が笹子峠で進路をふさがず、武田勝頼は岩殿城に逃げることができたならば。

岩殿城は、武田勝頼は、小山田信茂は、郡内(大月)の街は、街の人々は、そしてこの日本は、どうなっていたらだろうか。

駒飼宿～笹子峠～岩殿城の逃亡ルートを歩きながら、折乃笠は仮想する。

### 3. 行動内容（折乃笠公平）

#### 1)日時

7時44分:大月駅発 中央本線

8時01分:甲斐大和駅着

徒歩 甲斐大和駅→駒飼宿→笹子峠→矢立の杉→笹一酒造→初狩宿  
→花咲宿→大月駅→岩殿城入口→自宅 31km

16時00分:徒歩で自宅着

その後“笑点 最終回”を見ながらビール。

## 2) 武田勝頼逃亡ルート

赤: 事実 青: 仮想



## 4. 徒歩の旅レポート（武田勝頼）



私は武田勝頼です。妻の北条夫人、息子の信勝、そして数十人の家来とここ甲斐大和の地まで逃げ延びてきた。  
本日3月7日(1582年)笹子峠を超えて、大月小山田信茂の岩殿城に向かう。



8時19分  
笹子峠入口。  
先に笹子峠が見える。甲州街道最大の難所と言われている。  
皆は大丈夫か？ここまでの苦勞を考えれば問題あるまい。



8時39分  
駒飼宿本陣。  
住民は貧しそうだが、清く正しく明るく暮らしている。  
私もこの様な人生を送りたかった。



9時00分  
杉林がどこまでも続く。  
シーンと静寂な世界がある。  
私も自分の心を落ち着かせる。



9時40分  
美しい黄緑の木々。  
ここに木の柵がある。小山田が造ったのか。  
小山田の迎えはあるのか。



10時05分  
笹子峠。  
向うに見えるは小山田隊。やはり小山田は来てくれた！  
信茂、茂誠親子と数百人の軍勢が迎えてくれた。



10時10分  
緑の山、青い空、薄紫の藤の花。全てが美しい。  
数十日ぶりに生きている実感を味わう。  
必ず、武田を立て直す。



10時40分  
矢立の杉。樹齢1000年以上。  
我々はこの杉に矢を射立てて富士浅間神社を祀り、戦勝を祈願している。  
矢を撃った。これで武田は勝つ。



10時47分

笹子川の源流開始地点。

この川は後に桂川となって岩殿城、相模湖へ。

その後、相模川となって、北条の領地を通り、大海原に行く。

私も海がある領地がほしい。いや、取ってやる。



11時34分

笹子宿に入る。ここまでくれば岩殿城まで13km。

民家から平和な煙がたっている。

昼の飯の準備か。



12時08分

笹子の造り酒屋で昼食をとる。

とろろ飯と山菜蕎麦。

こんな旨い飯が世の中にあっ  
たのか。

一生、わすれないだろう。



13時35分

初狩宿を通過。

百蔵山と扇山が見えてきた。

この山からの富士は美しい。もう一度見てみたい。



14時15分

真木地区に入る。

笹子川がこんなに大きくなっている。

おお～。百蔵山の手前に岩殿山が見える。

涙が出る程、懐かしい。



14時32分

花咲宿本陣。

平和になった暁には、産業の人一つとして  
ここで納豆を造ろう。

本陣本家の星野氏ならできるはずだ。



14時58分

大月宿中心着。

これからは、ここを郡内地方の中心として発展させよう。

将来は、富士山の玄関口として交通網を発展させよう。



15時10分

岩殿山の麓まで来た。

見上げると絶壁の岩壁に城がある。関東一の要塞。

私は、ここで甲斐を収め、天下統一を狙う。



15時20分

ついに岩殿城に着いた。

新府城を出て、長い道のりであった。

皆のもの、良く頑張った。良く私に付いてきてくれた。

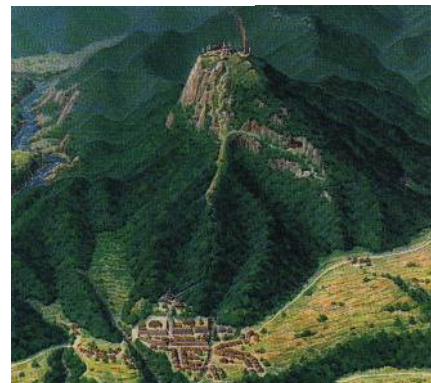
感謝申し上げます。

## 5. 岩殿城紹介（インターネットより）

戦国期のはじめ大月市周辺では何回となく北条氏や上杉氏と合戦があった。

郡内守護小山田氏は難攻不落を誇る岩殿城をたて善戦した。岩殿山城は東西に長い大きな岩山をそのまま城にしている。全方面が急峻で、南面は西から東までほとんどが絶壁を連ね、北面も急傾斜である。東西から接近できるが、それも厳しい隘路を通らなければならない。各種の防御施設が配されたが、

出典：インターネット



天然の地形のせいで郭も通路も狭く、大きな施設の余地はなかった。  
 周囲には集落や武家館が点在していたと考えられている。  
 浅利(折乃笠住居)は岩殿城に一番近いところから、城下の住居や武将の館があつたといわれる。

出典:折乃笠別日登山時撮影



岩殿山より西方の大月の街を見下ろす

#### 6. その後どうなったか (折乃笠公平 仮想)

武田勝頼一行は、その後3日間、岩殿城で平和な日々を過ごした。  
 4日目、西の方角から10万人という大軍がこちら目掛けて押し寄せて来るのが見えた。織田信長と徳川家康の連合軍である。  
 陣頭指揮するは、織田信長自身であった。  
 早くも岩殿城は四方八方包囲されてしまった。  
 勝頼は小山田信茂と対処について協議するも結論出ず。  
 数日経つも、連合軍は動かない。

勝頼は籠城を決意。岩殿城には城下につながる地下道がいくつかある。食料や水は、ここから補給すれば良いと考えた。  
 しかし、連合軍の隠密はすでにこの事は知っており、全て閉鎖していた。  
 籠城する事1ヶ月、岩殿城の食料や水は底をつき、城内は混乱状態になっていた。  
 その時、360度城下に火の手が上がった。  
 遂に信長は城下を焼打ちに掛かったのである。  
 そして、数日の内に大月の街は消滅した。  
 この光景を目のあたりにした小山田信茂は万感尽きて女子供含めた一族と自害した。自身が造り上げた大月の街が無くなってしまったのである。  
 無念である。

あの時、武田勝頼を笹子峠を通したことを深く後悔した。  
 おのれは死すとも祖先伝来の自国領民を救いたかった。  
 その翌日、数十人の連合軍は岩殿城に駆け上がった。  
 この時、武田勝頼は戦う気力すら失せていた。  
 一瞬にして、首を斬られた。首を斬ったのは織田信長自身であった。  
 こうして、名門武田家は最悪の終わりをとげた。  
 甲斐武田の始祖・信義、武田の優・信玄は、あまりにも勝頼の武将らしからぬ終わり方に対し、深く嘆き悲しんだ。  
 現在、武田勝頼の墓は存在しない。

更に歴史は大きく変わる。

本能寺の変は起こらなかった。織田信長はこの大月の地にいたからである。  
 その後、織田時代は続く。

徳川時代と違って、土農工商・産業は発展せず、高い文化の育成、平和な時代は無かった。戦国時代が続いたからである。

よって明治維新もなく、文明開化、富国強兵も無く、日本国は大きく世界から立ち遅れた。

そして現代、我ら日本は西洋諸国の植民地になっている。